



REDD研究開発センター 平成25年度 第一回公開セミナー 途上国の森林保全活動に向けた 民間企業の役割と課題

プログラム

平成25年**10月16日**(水) 15:00～17:45(開場 14:30)

木材会館 7階ホール(東京都江東区新木場)

<http://www.mokuzai-tonya.jp/mokuzaikaikan/index.html>

主催 (独)森林総合研究所 後援 日本熱帯生態学会

森林総合研究所REDD研究開発センター

E-mail : [redd-rd-center@ffpri.affrc.go.jp](mailto:red-d-center@ffpri.affrc.go.jp)

TEL: 029-829-8365 / FAX: 029-829-8366

URL : <http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rdc/ja/seminars/schedule/2013/10/16/01.html>



独立行政法人森林総合研究所 REDD研究開発センター

REDD Research and
Development Center
Japan

REDD研究開発センター 平成25年度 第一回公開セミナー 「途上国の森林保全活動に向けた民間企業の役割と課題」

●ご挨拶

世界の森林は途上国を中心に現在も減少・劣化が進みつつあり、森林資源量の低下、水資源や生物多様性、炭素吸収・貯留等の環境サービスの低下などが懸念されています。国際社会では、途上国における森林保全活動が気候変動緩和策REDDプラスとして新たに注目を集め、自主的市場における炭素クレジット取引を視野に入れた民間認証スキームや企業とNGOとのパートナーシップによるCSR活動など、民間による森林保全の取組も拡大しつつあります。一方、欧米を中心に、先進国で消費される商品のサプライチェーンの見直しを通じて、原材料の安定確保や製品の差別化など本業の一環として森林保全に取り組む考え方も拡がりつつあります。このような民間企業による取組は、森林保全活動としての意義を持つと同時に、先進国の市民の関心を喚起する効果も大きいと考えられますが、我が国ではいまだ少数事例にとどまっています。

このような中、いま、我が国の企業活動は、我が国の市民・消費者と途上国の森林をつなぐ大きな役割を果たすことが期待されています。このセミナーでは、途上国の森林保全とREDDプラスをめぐる最近の国際的・国内的な動向について情報共有を図るとともに、我が国の市民・消費者と途上国の森林との結びつきに関する民間企業の先進的な事例について紹介し、今後我が国の民間企業が本業の発展と併せて途上国の森林保全に取り組むために考えられる発想や必要な条件整備について参加者の皆さんとともに議論を行います。本日の議論が世界の森林資源の保全につながるよう、皆様からの自由な発想、積極的なご発言をお願いいたします。

●タイムテーブル

14:30-15:00	受付
15:00-15:10	開会挨拶
15:10-15:30	「途上国の森林保全とREDDプラスをめぐる経緯と動向」 森林総合研究所REDDセンター長 松本光朗
15:30-15:50	「民間の参画による森林保全 -インドネシアとペルーからの事例」 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 浦口あや氏
15:50-16:10	「東南アジアにおける森づくりオフセットの取り組み」 住友林業株式会社 佐藤裕隆氏
16:10-16:30	「熱帯雨林の保全につながる企業のCSR活動事例」 モア・トゥリーズ 水谷伸吉氏
16:30-16:50	「熱帯林保全に関する合法木材と小売業界の役割」 FoEジャパン 三柴淳一氏
16:50-17:05	パネルディスカッション導入 株式会社 博報堂 川廷昌弘氏
17:05-17:15	休憩（10分間）
17:15-17:45	パネルディスカッション（司会：森林総研 松本光朗）
17:45	閉会